夢への架け橋
～僕らの創る福祉の未来～

加世田常潤高校・生活福祉科
NEWS レター
第４号(2023.9.16)

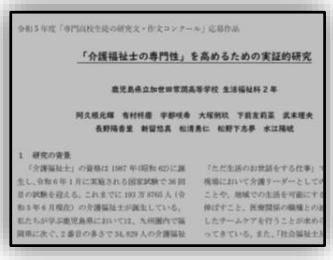
「大逆転!!」(文責:有村)

常潤高校では９月９日に体育祭がありました。私たちにとっては、二度目の体育祭であり「今回こそは勝ちたい!」という強い意志を持ちながら体育祭に参加しました。私は輪回しと生徒会種目の借り物競争に出場し、どちらも結果としては一位でした。しかし、タスキを渡す際に少し手間取ってしまったので、来年はスムーズに渡せるようにしたいです。また、みんなで応援を出来るようにしていきたいと思いました。途中の成績発表では私たちは最下位でした。競技が進むたびに「負けてしまうのではないか」という不安の声もありました。休憩をはさみ、後半の競技を続けていると勝てる競技も出てきて「もしかしたら」という希望がみんなの心に出てきました。閉会式で結果が発表され、二年生の赤チームが一位になり優勝を勝ち取ることが出来ました。このことから、何事も最後まであきらめずに取り組み続けることが大切だという事を学びました。

介護実習においても,利用者の方の生活をよりよいものにしていくために最後まで諦めずに情報収集をし続けることが大切だと思いました。

「反省と今後に向けての取り組み」(文責:長野)

７ 月の実習後に「利用者の実態に応じたコミュニケーション」「介護職にとっての積極性・主体性」「利用者理解のための観察力と観察の視点」という ３ つのテーマを挙げ、実習を振り返って今後の取り組みなどを研究しました。私のグループは、「観察」をテーマにグループで活動をしており、クラス全体にどのような場面と視点で観察を行ったかインタビューをすることにしました。インタビューをしたところ、食事場面での観察が多くその中でも「表情」「ペース」「食事形態」に視点を向け観察を行った人が多いということがわかりました。その結果から食事の場面だけでなくもっと様々な生活の場面で観察を行う必要があるという課題が見つかりました。そのため、この課題をもとに９月の実習では観察の視点を広げ、様々な介助場面でも観察を行っていきたいと思いました。また、本当にその観察が正しいのか職員の方に質問を積極的に行い、同じ実習メンバーと情報を共有していきたいと思います。


令和５年度「専門高校生徒の研究文・作文コンクール」応募作品

「介護福祉士の専門性」を高めるための実証的研究

鹿児島県立加世田常潤高等学校 生活福祉科２年

阿久根元輝　有村祥慶　宇都咲希　大塚則咲　下前友莉菜　武本理央
長野陽音里　新留悠真　松清勇仁　松野下為夢　水江陽祐

１　研究の背景

「介護福祉士」の資格は 1987 年(昭和 62)に誕生し、令和６年１月に実施される国家試験で 36 回目の試験を迎える。これまでに 193 万 8760 人（令和５年６月現在）の介護福祉士が誕生している。

私たち薩示鹿児島県においては、九州圏内で福岡県に次ぐ、３番目の多くて 34,829 人の介護福祉

「ただ生活のお世話をする仕事」や現場において介護リーダーとしてのことや、地域での生活を可能にする伸ばすこと、医療関係の職種との連したチームケアを行うことが求めってきている。また、「社会福祉士

【編集後記】

朝夕の風に季節の移り変わりを意識することが多くなってきました。学校にとって，２学期は行事も多く様々な学びが準備されている期間とも言えます。本校でも体育祭や常潤祭（文化祭）に，収穫祭，現場実習と盛りだくさんです。これらの行事は生徒にとって思い出を作るチャンスにもなりますが，主体的・積極的に何かに挑戦しようとする気持ちや，状況を判断して目的を達成するために企画運営をする力などを養う学習機会にもなっています。これからの社会は答えのない不確実な社会になると言われています。その中で問題意識を抱き，自己と周囲を調整しながら共に解決していこうとする力が問われていると感じています。生徒のそばにいる一人の大人として自らがその実践を深めていく必要がありそうです。

（学級担任　岩川亮太）